

令和元年度 【 学園研究費助成金< A > 】 研究成果報告書

学部名 教育学部

フリガナ イソベキンジ
氏名 磯部 錦司

研究期間 令和元年度

研究課題名 日本と世界の児童画における表現内容と色彩の関係分析

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	磯部錦司	教育学部	教授
研究分担者	増井 透	人間関係学部	教授
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

子どもの表現内容と色との関係について、心理学と教育学とが協働し、質的、量的な相互分析から背景に見られる生活や文化、活動のプロセスと色彩表現について分析し、子どもの色彩表現における特徴を示す。本研究では、現象学的・臨床的手法と合わせ、物理的測度と心理的測度、さらには量的及び質的分析を統合し行う。また、表現内容と概念形成や色彩との関係、文化的要因の関与等を検討し、国内外でのフィールドをもとにプロセスの記録と行為、造形要素の情報を合わせ分析を試みる。

2. 研究の推進方策 (300字程度で記述)

内的表象としての心的イメージの構造と機能について究明し、また色彩の心理効果や応用に関する神経心理学的研究を行う。さらに、芸術教育学との共同研究において、シドニーと日本での調査の統計解析を試み、以下の計画において取り組む。

○これまでの日本、オセアニア、アジア、ヨーロッパにおいて収集した資料からの分析

○シドニー、日本における新規絵画資料の収集

○収集した資料について、臨床的手法と合わせ、物理的測度と心理的測度、さらには量的及び質的分析を統合し行う。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

子どもの表現内容と色との関係について、心理学と教育学とが協働し、質的、量的な相互分析から背景に見られる生活や文化、活動のプロセスと色彩表現について分析し、子どもの色彩表現における特徴を示した。

これまで自然観、生命観に関わる視点から、日本と合わせ、オーストラリア、フランス、韓国、ドイツ、タンザニアにおいて記録の収集をおこなってきた。量的分析では、造形要素から、色彩、形態、モチーフとなる事物について積み重ね行い、内容との関わりにおいて質的な分析を継続し自然観に関する子どもの描画における表現内容と色との関係について、相互分析の国際比較を行った。本研究では、現象学的・臨床的手法と合わせ、心理的測度を用い、さらには量的及び質的分析を統合して分析を行った。また、表現内容と概念形成や色彩との関係、文化的要因の関与等を検討し、プロセスの記録と行為、造形要素の情報を合わせ、表現内容と色彩がいかなる関連をもつかについての分析を試み、蓄積したデータと合わせて異文化的要因の検討を試みた。さらに、表現内容の色彩と形態の量的分析を通して子どもの内的イメージとその表出に関する心理学的側面の研究を行い、特に、シドニーと日本で統計解析による調査比較を試み、分析内容の一貫性および信頼性の検討を試みた。

色彩表現の特徴に関する量的分析では、「生命(いのち)のイメージ」という共通テーマに関する自由画を対象にして、造形要素から、色彩、形態、およびモチーフとなる事物について分類と情報量算出を行い、内容についての質的分析と合わせて特徴を抽出する研究を継続した。同年代を比較した結果、欧州やオセアニアでは、自然の固有色が一貫して多く用いられ、内容も自然の風景や自然物が直接に描かれた。一方、日本や韓国では、自然の固有色以外が比較的多く使用され、形態も抽象的なものが多くみられた。これらの結果から、生活や文化の違いだけでなく学習環境との関係が背景として推測された。

4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

①絵画	②色彩	③自然観	④生命
⑤国際比較	⑥相互分析	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

・磯部錦司「生命をコアとした『知のネットワーク』において生成される自然観」『芸術の6層による教育』ななみ書房, 2020年3月, pp.293-301.

・増井透・磯部錦司「子どもの描く絵における色彩情報の分析」, 人間関係学研究, 2019年3月, pp79-85.

*今後、「美術科教育学会」, 「日本色彩学会」等において、発表を予定している。